
2022年6月4日（土）「サラリーマン川柳に見る世相史」のご案内

東京支部の皆さま

こんにちは。筒台会東京支部の役員、平賀典生（平成3年卒）です。

本日は6月4日（土）に開催します「語る会」（参加無料）をご案内します。

今回の語る会は「サラリーマン川柳に見る世相史」をテーマに東京支部の武山支部長より話をさせていただきます。

サラリーマン川柳はご存知の方も多いと思いますが、武山さんが勤めておられた第一生命が主催するイベントで1990年（平成2年）からすでに30年以上続いているものです。

毎年ベスト100やベストテンが発表されると、マスコミで必ず取り上げられる恒例行事となっています。

「歌は世につれ、世は歌につれ」という言葉がありますが、川柳も同様に「サラ川は世につれ、世はサラ川につれ」

とそれぞれの時代、世相を色濃く映し出してみせてくれます。

例えば、平成の初期、こちらの川柳では当時のサラリーマンの住宅事情がよみがえります。

1990年（平成2年）	一戸建手が出る土地は熊も出る	ヤドカリ
	マイホーム遅寝・早起き食事抜き	一番鶏
1991年（平成3年）	一戸建てまわりを見ると一戸だけ	貝満ひとみ

今回は、渋谷の会場への参加と合わせて、新しい試みとしてオンライン参加（ZOOM）のどちらかをお選びいただけるよう準備しました。

会場が遠い、あるいはコロナが心配という方にもオンライン（ZOOM）で参加いただけます。

ぜひ一人でも多くの方々にご参加いただければ幸いです。

記

○テーマ：「サラリーマン川柳に見る世相史」

○講師：武山芳夫（筒台会東京支部長、昭和47年卒業）

・プロフィールは次頁をご覧ください。

○日時：2022年6月4日（土）午後3:00?4:30

○会場：渋谷 ふれあい貸し会議室（定員22名）

東京都 渋谷区渋谷 2丁目 22-7 渋谷新生ビル 702号室

<https://www.navitime.co.jp/poi?spot=01344-6122&ncm=1>

（渋谷駅B5出口から徒歩1分）

※会場においては、出席者のマスク着用、手指消毒、座席のスペース確保、換気等の新型コロナ対策を実施します。

○オンライン：ZOOM 配信（定員30名）

○申込方法

・お申込みは、下記のフォーマットよりお願いします。

（「会場参加」か「オンライン参加」か選択してください。）

<「語る会」申込みフォーマット>

https://todaikai-tokyo.com/yomi-mailer/y_mail.cgi?id=form5

・締切は5月20日（土）とさせていただきます。

・申込みいただいた方には後日詳細をご案内します。

以上となります。

では、当日お会いできることを楽しみにしています。

この人 KONOHITONI KIKU に聞く

Profile Interview

葺合高校OB・OGで各界、各層で活躍しておられる方々にお聞きしました。

- ① 氏名
- ② 職業
- ③ 卒業年度
- ④ その他
- ⑤ 現在の活動状況
- ⑥ この道に入るきっかけ
- ⑦ この道に入って一番うれしかったこと苦しかったこと
- ⑧ 将来の目標
- ⑨ 葺高時代の一歩の思い出
- ⑩ 筒台会会員に一言

- ① 武山芳夫
- ② 学校法人二松学舎 理事
デンヨー株式会社 取締役
- ③ 昭和47年卒・高24回生
- ④ 灘区に生まれ、稗田小学校→原田中学校→葺合高校→同志社大学法学部政治学科と進みました。
- ⑤ 大学卒業後は、1977年4月第一生命保険相互会社に入社しました。配属された先は何とシステム部。数学が苦手の典型的な文系人間がシステム部配属とは！入社後3か月はフローチャートの書き方に始まりプログラム研修などシステムの基本を勉強する日々でした。今と違いコンピュータがまだまだ遠い特殊な世界の時代でした。ただし、システムの仕事にその後長く関わ



米マイクロソフト サティア・ナデラCEOと(経団連会館)

ることができたことは、結果的によかったですと思っています。

2005年にIT企画部長になり、その後執行役員、取締役常務執行役員を経て、第一生命のシステム会社である社員1,800人ほどの第一生命情報システム株式会社の社長、会長に就き、昨年6月退職しました。42年間の会社生活に一区切りがつきました。

この間、大型コンピュータの時代からやがてパソコンが生まれ、さらに今やインターネット、スマホを誰もが使う時代、Society 5.0とも呼ばれる新時代になりました。世の中のみずみずまでITが浸透し、ITなくしては何も動かないこの変革の時期をビジネスの現場で立ち会えたことは大変エキサイティングかつ貴重な経験でした。

また、本業以外の仕事としては、第一生命のグローバル展開に合わせて、2012年からは会社がインドに作った生命保険会社の取締役を務めました。お陰で、インド・ムンバイには3年間で16回出張しました。合弁先のインドの国有銀行2行の会長、役員達とは取締役会の中でさまざまな議論を行いました。国情、立場の違いを感じるとともに、自分の思うところを十分語り尽くせば分かり合えることも学びました。

さらに、社外の活動として、2011年から7年半ほど経団連の情報通信委員会企画部会長を務めました。Society 5.0についての提言をまとめたり、日米インターネット政策協力対話や日EU・ICTセキュリティワークショップといった国内外の官民会合に参加する機会も多く、視野をずいぶん広げることができました。

お陰で、2018年には思いもかけず「前島密賞」(通信文化協会)という賞をいただきました。

- ⑥ 上記②のとおり、現在は二松学舎という大学を中心とする学校法人の理事を務めています。また、非常用発電機、電気溶接機を



日EU・ICTセキュリティワークショップ (ブリュッセル EU委員会本部)

作っているメーカーの社外役員でもありません。どちらも非常勤の仕事ですが、その組織の外から見た視点での発言、提言が求められます。自分のバックボーンとは違う世界での仕事ですが、お役に立てるうちは続けようと思っています。

また、筒台会東京支部長も重要な仕事です。こちらも微力ながら母校と筒台会の発展につながる活動ができればと考えています。

- ⑨ 夏休みなど学校が休みになると、友達とリュックを担いでよく旅行に出かけました。瀬戸内海の家島、淡路島、山陰の隠岐、飛騨高山、和歌山など、懐かしい思い出です。その中の親友が5年前に病気で亡くなったことは痛恨の出来事です。

⑩ 母校というのは不思議な存在です。自分を育ててもらったという意味では「親」であり、一方卒業後はどうなっているのか、うまくいっているのか気になるという意味では「我が子」のような存在です。

筒台会の人達に接すると、皆さんこの「親」「子」両面への愛情が強く、母校を誇りにしていることを感じます。

東京支部もこうした同窓の思いに応えられるよう活動を充実させていきます。会員の方にはまずは会のイベントにぜひ参加いただき、積極的に交流していただければと思います。



日米インターネット政策協力対話 (ワシントンD.C. 国務省)